



シルバーだより

No. 378
令和4年7月1日
荒川シルバー大学
荒川区荒川3-49-1
理事長 岡田芳子
TEL 3801-5740
FAX 3801-5691

— シルバー・知る場 —

絵手紙教室講師 中島 愛子

私の父は、多趣味ならぬ「多興味」の人でした。文芸・歴史・映画など、広く浅くでしたが、中でも美術に関しては、憧れに似た思いがあったようです。どちらかと言うと、制作より鑑賞の方で、描いている姿の記憶は殆どありません。その父が退職後、絵を描き始めました。退屈しのぎにとでも思ったのでしょうか。まだカルチャースクールが現れる前で、近隣にあるのは、子供相手の「お絵かき教室」という時代です。父の気持ちは「絵を学ぶ」より「好きだから描く」でしたから、家で気の向くままに描くことで満足していたのでしょう。

ある日、実家を訪れた時、父がそれらの絵を見せてくれました。庭の草花の写生や映画スターの写真の模写など、決して達者とは言い難い出来でしたが、真面目にコツコツ仕上げたな、と感じられる絵でした。

私が荒川シルバー大学に関わるようになって以来、色々な教室の学生さん達の活動に接してきて思いました。

——もし、今現在、父が生きていて荒川区に住んでいたら、きっとどこかの講座に入っていたに違いないと。水彩画かな？俳句かな？いや、新しもの好きでもあったから、パソコン教室だったりして。或いは母も引っ張り込んで、歴史散歩を楽しんだかも、などと空想が次々に広がります。そして、同じ教室の中で気の合う人と出会い、新しい友を得たのではなかろうかと思うのです。

関東大震災や大戦をくぐり抜けた父にとって、その晩年は極めて平安な日々だったと思いますが、それに加えて、シルバー大学のような「楽しい学びの場」に出会っていたら、更に充実した人生になったことでしょうか。それが実現していたら、どんなにか生きる力になっただろうと、今更ながら思ってしまいます。私が担当する絵手紙教室で、皆さんが生き生きとやり取りしたり、筆を動かしている姿を見ると殊にそう思います。

「六十の手習い」という諺がありますが、人間はいくつになっても「知りたい」「学びたい」という願望があるのではないのでしょうか。高齢者でも(私も含めて)、意欲があれば学べる場が身近にあるのは素晴らしいことだと思います。これからも、大いに利用して欲しいと願っています。



《《 卒業式に思うこと 》》

3月22日(火)に無事、卒業式を迎えることがきました。あっという間の5年でしたが、その間、コロナ禍のため授業中止や教室変更など、先生方、事務局の皆様には大変お世話になりましたこと、感謝申し上げます。

私は、4教室受講しております、それぞれの教室での同級生とは隔週お会いするのですが、先輩の皆様は本当に積極的に予習、復習をされており、私も見習わなければと思いつながりの5年間でした。

コロナ禍以前は、教室の授業だけでなく、それぞれの教室で、食事会、旅行会など楽しい思い出もたくさんありました。また、学芸会も中止、あるいは延期となりせっかくの成果発表ができなかったのは残念ですが、それぞれの教室ではいつコロナが終息して学芸会ができるようになってからも成果発表ができるよう準備しております。延期になりました学芸会は本年6月17日(金)に予定されておりますので、新入生を迎えて新しいメンバーとも協力して、久しぶりの学芸会を楽しみたいと思っております。

(フラダンス教室代表 志村 眞知子)



《《 料理教室の思い出 》》

前料理教室講師 立川 禮子

正式に料理学校で料理法を学んでいない私に、シルバー大学料理教室の講師の話があった時、遠慮しようと思わなかったのは、シルバー大学の目的が、元気に楽しく年を重ねるのに何が必要なのかを、原田治子名誉学長と話したことが心にあったからだと思います。

完全な料理法を教えるのではなく、心と身体が元気で、シルバー時代を生きることが目的だ、と考えていたからでした。高価でない身近な食材を使って脳の活性化を促す料理を作ればよいと考えていました。

簡単に作れるおいしい料理を考えるのが楽しかったのです。食材一人一食300円予算で主食・副食・汁物を考えるのは易しくはなかったけれど楽しかったのです。できあがった料理が『おいしい』と言われると、それが私の勉強になりました。

10年も続いたのは、学生さんのお陰と感謝しています。物価の値上がりは、悩みでしたが、「脳と手先を使うのが元気の素」だとわかってもらえたらそれで満足、と今感じています。



《《 読書・心の旅教室に学んで 》》

教室で学んで、早一年。読んだ本を記録として読書ノートに書きます。文才がない私には、重荷と感じていました。しかし、ノートに書くことによって、物語を一步深く踏みこめたと思うようになりました。視野が広がり、細かい部分まで気になります。本の内容とは関係がない所で、考え込んでしまう。

その一つに、藤原緋沙子著「恋の櫛」があります。文章の中に、袋物で「巾着・紙入れ・袖落とし」とあった。「袖落とし」、初めての言葉に頭を悩ませた。巾着から、巾着切りの言葉が頭に浮かび、巾着を銭入れと考えると、さて袖落としは？さんさん悩んだが、巾着は手提げ袋、袖落としは銭入れとして考え納得した。

●藤沢周平著「驟り雨」の読書ノートより●

嘉吉は、妻子を亡くしたことで、心はすさみ、昼間は研ぎ屋として働いているものの、時折悪い血が騒ぎ、人の家に忍び込む。今夜も盗みに入る途中、雨が降りはじめ、神社の軒下で雨が止むのを待つ。雨宿りをしていると、様々な人間模様が映し出される。「ひっそりと辺りの様子を窺っている。」(その場面を思い浮かべた時、思わずヒッチコックの裏窓を連想した。)



雨がほとんど止んだ頃、母親と6,7歳の女の子がやって来る。見聞きしていると、病弱な女房と子供を捨てて、若い女と暮らし、家庭をかえりみない亭主。生活は困窮し、思い切って亭主を訪ねたが、冷たくあしらわれ、家に戻るところだと察した。

『もったいねえ、こんないい女房子供がありながら、許せねえ、ぜいたくな野郎だ。』(嘉吉にとっては、一瞬で手のひらからこぼれ落ちた平凡な家庭の幸せ。亡くしたゆえに、女の亭主へのやっかみ、腹立ちが伝わってくる。)

母親は立ち上がって歩くが、前にのめる。たまらず嘉吉は飛び出し、『怪しいもんじゃねえ』と言うが、黒い布の頬かむり。母親は疑う。頬かむりを取り、黙って背をむけた。母親は嘉吉の背に倒れこむ。『よかったら、ちっとぐれえ力になりますぜ、おかみさん。』(亡くした妻子の代わりに面倒をみたいと思う心と男の優しさを感じた。)
「こわばっていた女の身体が急にぐったり重くなった。」(警戒心・緊張感・生活の不安がなくなり、女が安心するさまを現わしている。)
「嘉吉は満足し、女の身体をゆすり上げた。」(これがきっかけとなり、三人がおだやかな生活が送れると思いたい。)



読書ノートに書く前には下書きをします。文章がなかなかまとめられず、何回も書き直します。そう、まるで昔の小説家のように？

最後にこの一年、色々な本に出会えて、本当に良かったと思っています。

(読書・心の旅教室 田村 美和子)

「理事長・学長はじめ皆様、コロナ禍の難しい時期に、細々とでも努力して繋げていることは、素晴らしいです。正に歴史を繋いでいることです。生き生きとして、元気になれます、そして美しいです。ひきこもってなどられませんね。」とおっしゃっておられました。(室長 田原)



上記写真：原田治子名誉学長を囲んで

※荒川シルバー大学ホームページ更新履歴

6/20 読書心の旅 6/16 社会科見学 6/14 今と昔の歴史散歩 6/11 パステル絵具画
6/1 ご挨拶・お知らせ・シルバーだより 5/31 今と昔の歴史散歩
5/28 英語 5/27 社会科見学・読書心の旅 5/19 輪踊り民舞

❀ 8月の「シルバーだよりは、お休みとさせていただきます」 ❀

◆◆◆ 学 園 日 誌 (6月) ◆◆◆

- | | | | |
|-----|--|-----|------------------------------|
| 1日 | 常任理事会・役員会
令和3年度決算報告
令和4年度予算報告
監査報告 新井・中田監査役
令和3年度学芸会開催について | 17日 | 令和3年度 学芸会開催
サンパール荒川小ホールにて |
| 16日 | 区民施設課より訪問
令和5年度ムーブ町屋について | 21日 | 広報委員会 |
| | | 21日 | 区生涯学習課より訪問
令和5年度パソコン室について |
| | | 30日 | シルバーだより 378号作成 |

※事務局だより※

去る6月17日、3年ぶりに開催された「学芸会」は、歴史の一頁としてお一人お一人の胸に深く刻まれたことと思います。長く混沌としたコロナ禍への思いを払拭できたときえ思えるような素晴らしい時間でした。爆笑、そして感涙・・・と成功裡に終了できたことと思います。皆様に感謝申し上げます。

1. 講師会について

日時：7月20日(水) 午前10時～ 会場：センター3階 大会議室

※学園祭(11月11日～13日)についての大切なお話し合いもごございます。

◆事務所夏季休暇：8月9日(火)～19日(金)

事務所に御用のある方は、22日(月)からどうぞ。

TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>

室長・田原

